

WING NEWS



Honda **FLYING CLUB**
Honda **FLYING SCHOOL**

215

2009
MAY.



フライトには絶好の
季節になりました。
ホンダエアポートへ
ご家族でピクニック
がてらお越し下さい。



○実地試験合格

●自家用操縦士



No.5747 吉岡 浩昭 様
平成21年2月18日 JA3934

“そろそろ単独飛行に出ませんか”の勧めに対して、“いや～まだ…”とご自分の着陸に納得がいかず自主的に足踏みしていたのが、ついこの間の様に思います。

それから一念発起、延べ5年9ヶ月(186時間)良く頑張りました。

特に着陸については、極めようと努力された結果、各教官からも折紙付きの天下逸品でした。

今後は、ご自分の至らなかった所を自覚しつつ飛行安全に努め、フライトを楽しんで下さい。合格おめでとうございます。

渋谷教官

○自家用操縦士



No.5750 小須田 真一郎 様
平成21年4月13日 JA3937

おめでとうございます。

仕事の関係でファイナルチェックから試験まで色々ともたつきましたが、最後は収まるところに収まりました。

ゆっくり休んでいただきたいところですが、試験終了と同時に仕事とは…。

仕事があるのは何よりですが、機長として飛ぶときはもっとゆったりとした気持ちで望んで下さい。試験官もおっしゃっていましたが、安全に楽しく行きましょう。おつかれさまでした。

石戸教官

松本新運航部長より挨拶



松本です。昭和63年本田航空入社以来ずっとヘリコプター畑を歩いてきました。私の顔を見ましたら、どんなことでも気軽に話しかけてきてください。又、現在の厳しい経済状況の中、飛行機に乗っていただき感謝しております。当社では今秋旅客機と同じような、グラスコックピットを装備したセスナを導入致します。その時を楽しみにしていただき、安全により快適な飛行環境を皆様を提供できればと考えております。よろしくお願いいたします。

新教官より挨拶（杉山教官）



4月1日付で本田航空（運航部飛行機訓練課）に入社した杉山です。生まれは宮城県の仙台市、家族は妻と子二人の四大家族で川崎市に住んでおります。本田航空では当初訓練生として足を運びましたが、ご縁があり操縦教官として皆様と一緒にフライトさせていただく機会を得ることができました。前職で操縦教育の経験が数年間ありますが、操縦教育証明取得は昨年12月の新人教官です。不慣れなところもあろうかと思いますが、誠心誠意、操縦訓練等に望む所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

新教官より挨拶（藤野教官）



4月16日付で本田航空（熊本運航所運航グループ）に嘱託従業員として入社致しました藤野です。前職は航空自衛官として39年勤務の後定年退職しました。搭乗機種はF-4及びRF-4に搭乗、操縦教官としてはT-33、T-3で教育、T-7では飛行教育隊長として勤務致しました。家族を山口に残し、5回目の単身赴任をしております。前職での経験を活かし、崇城大学の学生に対し操縦教育を行うこととなりますが、初心に戻り専心職務に精励し、優秀な操縦者として育成すべく努力致す所存でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。

平成21年度ホンダフライングクラブ 通常総会・安全講習会報告

クラブ事務局 鳥居

去る4月19日（日）本田航空となりの交通教育センターレインボー埼玉2階大教室において、平成21年度クラブ通常総会と恒例の安全講習会が開催されました。

総会には35名、安全講習会には58名の参加がありました。

総会の議題は、一号議案が平成20年度の事業報告と決算報告及び監査報告、二号議案が平成21年度活動計画と予算案でしたが、いずれも原案のとおり承認されました。

また、クラブ行事の活性化のため理事会も更なる活性化が必用になるとの考えから、クラブ行事によく参加していただいている「小野学さん」と「吉田秀一さん」にお声がけしたところ快くお引き受けくださるとのご返答を頂戴しました。総会でこの二人を今年度より理事に増員する承認を求めたところ満場一致で承認されました。今年度は濱尾会長、池田副会長、水野副会長、阿波副会長、赤塚理事、河合理事、柴田理事、高野理事、新妻理事に小野さん、吉田さんを加えた11名体制で理事会を運営致します。



【理事紹介】

前列左から

小野理事、池田副会長
濱尾会長、阿波副会長
水野副会長

後列左から

赤塚理事、高野理事
吉田理事、柴田理事
河合理事

事務局 鳥居

右上 新妻理事

今年度の活動は計画を承認してもらう「総会」及び安全な飛行のための「安全講習会」の開催、クラブ行事で一番エキサイティングな「本田宗一郎杯飛行競技大会」の開催、クラブ本来の目的であるフライトを楽しむための「ロングナビゲーション」の実施、クラブの社会貢献として航空協会等に高い評価をいただいている「ジュニアウイングス」の開催を柱とします。又、出来るだけ多くのクラブ員の皆様に参加していただける魅力ある内容となるようを理事会を中心として立案・推進していきます。

皆様にご協力をいただきながら活発な活動をしていきたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

会長総会挨拶

ホンダフライングクラブ 会長 濱尾 豊

本日は、会員の皆様多数のご出席いただきまして、ありがとうございます御座います。

又、お忙しい中、ご来賓と致しまして本田航空柳本社長様はじめ運航部長の松本様にもご列席いただきまして重ねましてありがとうございます御座います。

申し遅れましたが、本田航空様に於かれましては今年、創業45年を迎えられました、大変おめでとう御座います。

歴代の社長様には、長きに渡りフライングクラブを大事に育てていただきました、クラブ員を代表いたしまして心より感謝を申し上げます。

最近本田技研ではインサイトが大人気です。ここ本田航空様におかれましては柳本社長のもと、予定通り業績が向上しているというお話しを、前回理事会の折にお聞きいたしました、私どもクラブと致しましてはまことに心強いしいでございます。

又、クラブは本田航空のご指導を受け昨年度も安全運航を達成することが出来ました。クラブ行事においても皆様のご協力と担当理事の努力もありまして、予定通り、そして予想以上に盛大に行われましたことをご報告いたします。

年初のウイングニュースにも書きましたが、今年は久々に本田航空に新型セスナ4機が導入されます、この機体はクラブでの使用が可能になります。別に新型機は、すでに2機入っておりまして熊本の崇城大学の宇宙航空システム工学科に於いて4月から本田航空による委託教育運航が行われております。グラスコックピットの取り扱いなども順次ウイングニュースでお伝え出来ると思います。

昨年度、年度末に約20名のクラブ員が退会いたしました。

それぞれご事情がお有りの事と思います、今日まで、長年にわたりクラブを支えて来て頂いた方々でございます、心よりお礼を申し上げます。

しかしながら、会員の減少はクラブ運営にも関わることであります。

今年度の予算編成の折は、本田航空様のご好意によりまして、委託費の大幅削減を頂きました、それにより昨年同様の予算を組むことが出来ました。ウイングニュースは年3回の発行となりますが、ご了承を願います。

クラブは、新型機効果によるクラブ活動の活性化、それによる新入会員の増加などを期待しております、それでもクラブ運営が困難におちいる場合には年会費の検討をしなければならない時期が、近く来るかも知れないという事を申し上げておきます。

最後に明るいニュースをお伝えいたします、小田嶋教官に先月、玉のような、男子がお生まれになりました。おめでとうございます。

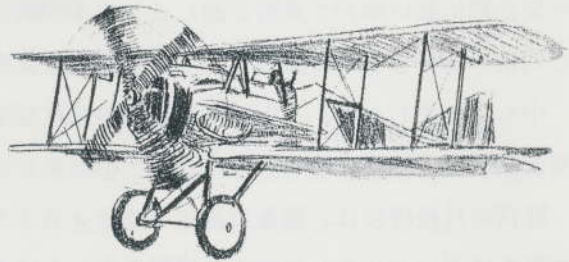
クラブ総会・安全講習会

《総会》

会長挨拶



事務局より昨年度の決算報告及び今年度の活動計画、予算案を説明し皆様の承認をいただきました。



来年度は3ページ記載の活動を柱として理事会を中心に出来るだけ大勢の会員の皆様に参加していただける行事を立案していきます。

宜しくお願い致します。

《表彰》

総会の最後に表彰が行われました。これからも安全飛行で経験を重ねて下さい。



氏名 (敬称略)	表彰内容
長谷川 隆	飛行経験30年
青山 忠敏	飛行経験30年
阿波 孝一	飛行経験15年
合場 英樹	飛行経験15年
伊藤 大輔	飛行経験15年
	飛行時間300時間
吉田 秀一	飛行経験10年
高柳 昭夫	飛行経験10年
	飛行時間300時間

《航空安全講習会》

総会終了後は、社団法人日本航空機操縦士協会主催の航空安全講習会が開催されました。
この講習会は日本航空機操縦士協会が（財）空港環境整備協会の助成金を受けて実施しており認定講師による平成15年3月28日付け国空乗第2077号による科目です。

《プログラム》

☆「冷静な判断を」

大澤講師

☆「対空援助業務を活用しよう」

吉田講師

☆「航空機事故について」

植田講師



休憩をはさんで、17:00までの長時間の講習でした。

講習会終了後には出席者全員にログブックに貼る「受講証」が手渡されました。

皆様お疲れ様でした。

これからも安全な運航でフライトを楽しみましょう！



セスナ172Sについて

本田航空では、現在セスナ172P（JA3934～JA3938の5機、JA4025の1機）を使用し
て操縦訓練を実施していますが、このセスナ172Pが製造されたのは昭和59年（1984年）
の事です。既に20年以上の月日が経っており、機体飛行時間は12000時間～14000時間に達
しています。その間、多くのパイロットを養成して来ました。訓練や実地試験時に使用し
た方などは、いろいろと思い入れのある方も多いと思います。このセスナ172シリーズで
すが1986年に一度生産が中止された事がありました。現存機の老朽化、他にあまり例を見
ない高翼機という特異性もあり、製造再開を希望する声に答え1997年にセスナ172シリー
ズが再開されました。再開時は172Rから生産が開始され一部エンジンをO-320D-2J
（160hp）からIO-360-L2A（160hp）へ変更、細部についても近代化がはかられました。
その後さらに改良が加えられた172Sが1998年にFAAの型式証明を取得、現在は172Sが最
新のモデルとなっています。172Sの改良点や移行訓練等についてはこれからこのウイン
グニュースで2回～3回に分けてご案内をしていきます。

本田航空では172Sの中でも計器類を統一表示化した、いわゆるグラスコックピット
（ガーミン社製G 1000）仕様を発注致しました。予定ですと今年末には本田航空にアメリ
カより搬入され、年内は新規耐空検査作業、事業機編入作業を行い早ければ来年早々には、
皆様に乗って頂けるよう準備を進めているところです。

以下に現行訓練機172Pと最新モデル172Sの写真を見ながら、変更点についてご案内し
ていきます。

外観について



最新モデル172Sの外観

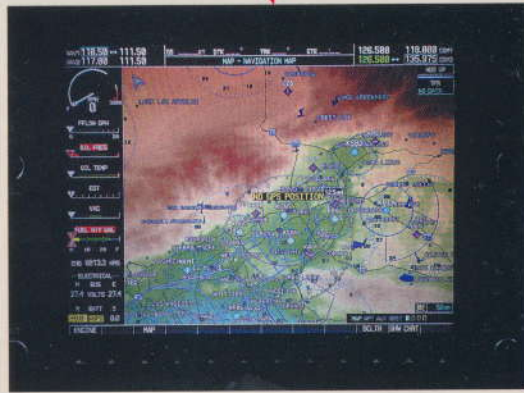


本田航空で使用中の172Pの外観

外観は大きな変更点はありません。スパッツ（車輪カバー）は172Pにも装備されてい
ましたが点検を容易にする為に取り外しています。

計器板について

なんと言っても今回の大きな変更点は、計器の変更点にあるでしょう。下図の装備はガーミン社製のG1000です。いわゆるグラスコックピットと呼ばれるものです。



この中には今まで172Pに装備されていたアナログ計器の飛行計器、航法計器、エンジン計器が一緒になっているのに加え、アビオニクス類もこの中に装備されています。計器の配列は、T型配列のような基本的配置は変わっていませんが速度計や高度計など今まで針を見ていたものが数字で見えるようになるので、初めのうちは違和感があるかも知れません。

GPSを装備している事により、上記右側写真のようにマップを表示する事も可能となり、飛行中の現在位置の把握が飛躍的に容易になっているのもパイロットにとっては大きな利点の一つになる事でしょう。

ナビゲーションライトについて



LEDライトに変更になっています
夜間の視認性は変わりません。

ナビゲーションライトは最近流行のLEDライトを採用しています。電球のような球切れが少ないLEDの使用により、交換間隔が伸びる事が期待出来ます。

エンジンについて

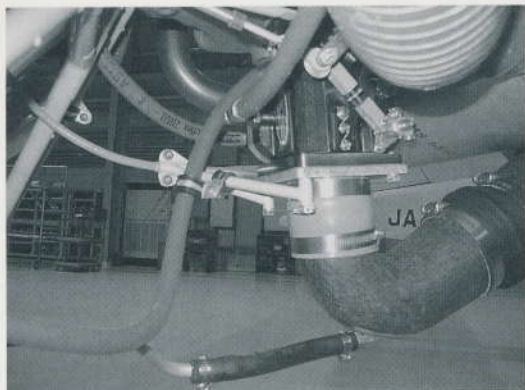


最新モデル172Sのエンジンの外観



本田航空で使用中の172Pエンジンの外観

一見あまり変更がないように見えますが、172P型はライカミング社製O-320-D2J (160Hp) を装備していましたが172SはIO-360-L2A (180Hp) を装備、出力が20Hpアップされキャブレター式からインジェクター式に変更が加えられています。インジェクター式に変更されたのは前モデルの172Rからですが、出力アップがはかられたのは今回からです。よって172S最大離陸重量も172Pの2400ポンドから2550ポンドに変更になっています。



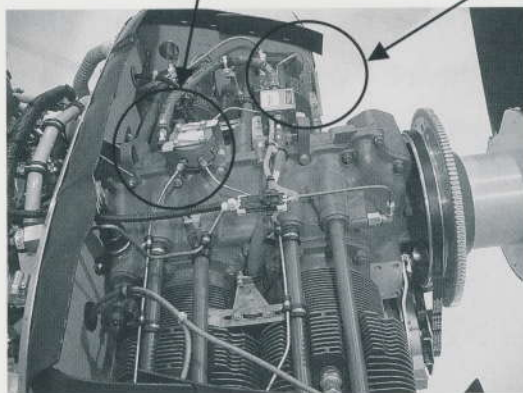
172Sのインジェクターの外観



172Pのキャブレターの外観

インジェクター式はキャブレター式と違い、燃料の噴射が上記本体の位置で行われていません。燃料は本体から下図のフローディバイザーへ行き各シリンダーへ分配されインジェクションノズルの所で噴射されます。噴射位置の環境がシリンダーの吸気バルブ手前と暑い場所ですので、キャブレター式のようなアイシングを起こしにくいとされています。よって172Pに装備されているキャブヒートノブは装備されていません。

フローディバイザー インジェクションノズル（この位置で燃料が噴射される）



キャブヒートノブの無くなった計器板
写真172S

限られた紙面の中で全てをご紹介してゆくのはなかなか容易な事ではありませんので、ウイングニュースでは概要的な紹介を主にさせていただきます。詳細については機体導入後に移行訓練を計画していますので、その中で機材を触りながらお話したいと考えています。

今回は、G1000システムをもう少し詳細に説明致します。

本田航空（株）【熊本運航所】平成21年4月1日 開設のご報告

熊本運航所所長 近藤 眞

今年は例年より桜の開花が早く、熊本空港では関東より1週間程早い3月22日ころ満開となりました。ホンダフライングクラブの皆様には益々、ご健勝の事とお慶び申し上げます。

平成19年10月に崇城大学・パイロット養成コースの立ち上げの為、崇城大学の教授様2名が、ホンダエアポートに来社されました。そのお話しの後、正式に本田航空に訓練をお願いしたいという依頼があり、本田航空では熊本空港で訓練事業を開始する為の準備を始めてから、はや1年6ヶ月が過ぎました。柳本社長をリーダーに崇城大学プロジェクト・チームを本田航空・社内に創り、C172Sの準備と事業所開設の航空局の許可申請、熊本運航所の人員・調整などの計画を定め推進しました。平成20年12月18日、19日の2日間で東京航空局による熊本運航所の運航管理施設検査を受検し、その検査後のフォローアップ事項のご報告などを行い、平成21年3月31日付で、東京航空局長様から熊本運航所の運航管理施設等の検査について「合格」を頂きました。

熊本運航所の位置は、「日本の空港」の図面にあります。熊本空港のP5誘導路に隣接する崇城大学・宇宙航空システム工学科と記載されています。P5誘導路をタクシーしていると「崇城大学」と大きく書かれたハンガーがみえるはずですが、ここは熊本空港の制限エリア内にあり、しかも専用エプロンを備えた立派な施設です。約20年前は「全日空乗員訓練所」の専用施設であり、当時は本田航空もこの施設をお借りして「熊本運航所」として、ANAのリフレッシュ訓練を双発機で行っていました。再び、同じ施設で「熊本運航所」として訓練事業を行うことになるとは、何か運命的なことが感じられます。熊本運航所の運航管理室の窓からは、離着陸するエアラインの機体が間近に見られる事と、Ground、Tower、APP、Radar、TCAなどの交信を合わせて聞けることで、ホンダエアポートと違う意味で航空のファンの人には羨ましい場所と思います。

ハンガーと運航管理室



熊本運航所のスタッフは、全員で9名です。本田航空のプロパーの社員として、近藤及び下村が3月末に赴任しています。それから崇城大学から出向して頂いている6名のうち、只野さん、東さんは、運航管理をお願いしています。松村さん、大串さんは操縦教官です。倉知さん、角さんは整備グループに所属しています。最後の一人は、藤野さんという航空自衛隊を退官され、操縦教官として本田航空が採用しています。藤野さんの採用で、4月16日に全スタッフが揃いました。この本田航空と崇城大学のコラボレーションによる飛行訓練は新しい取り組みであると感じます。

崇城大学の操縦士養成コースの一期生は現在10名で、大学の学年としては2年生の8月から訓練を開始します。まず自家用操縦士取得後に事業用操縦士を目指します。G1000装備のC172Sの取り扱いには、私たち年配の教官より早くできるのではないかと期待しています。

ホンダエアポートからC172で飛行して来た場合に、熊本運航所の施設を利用する事は崇城大学様の許可を頂かないとできませんが、何か運航に関してフォローする事はできますので、次の電話番号に連絡して下さい。(熊本運航所Tel:096-233-0163)

ホンダフライングクラブの皆様には、お目にかかることは少なくなりますが、どうぞ皆様、引き続きホンダフライングクラブが活性化するように頑張って下さい。それから引き続き安全運航にも注意して下さい。

最後に熊本運航所よりスタッフ一同、皆様が益々ご発展となりますように、お祈り申し上げます。



熊本運航所スタッフ

USE CAUTION

操縦練習許可書期限が迫っています（敬称略）

7月末までにに切れる方	9月末までにに切れる方
5761 岸野 達好 H21. 5. 21	5755 稲垣 美彦 H21. 8. 23
5793 横田 和明 H21. 6. 30	5802 大川 茂 H21. 8. 25
5661 正木 英俊 H21. 7. 2	5764 熊沢 真吾 H21. 8. 25
5796 大河内哲郎 H21. 7. 20	5667 朝倉 幸策 H21. 9. 9
	5803 塚本 信宏 H21. 9. 23
	5663 新井 敏夫 H21. 9. 23

●申請に必要なもの

住民票（本籍地記載のもの、発行3ヶ月以内）……………1通

練習許可申請書（身体検査を受診する病院でお受取り下さい）……………1通

③申請書の住所及び本籍は、住民票にある通り、丁目、番地等を略さずに書いて下さい。氏名の後部に朱肉印捺印、また、欄外に捨印を押して下さい。シャチハタ印、又はこれに類似した印は不可。

④身体検査は、操縦練習許可書の有効期限の1カ月前以降に受けて下さい。申請書の有効期限は1カ月です。手続きに時間がかかる場合がありますので受診したらすぐに、遅くとも有効期限の10日前までに、申請をお願いします。

写真（インスタントは不可）たて3cm×よこ2.5cm……………2枚

⑤写真の裏側にかならず記名して下さい。

申請諸費用……………3,200円

●身体検査の受診場所（事前連絡が必要です。）

宮入内科（有楽町交通会館）……………03-3211-4845

中溝クリニック（港区芝浦東芝ビル4F）……………03-3452-4468

はごろも内科・小児科（立川市羽衣町1-16-9）……………042-522-5234

東海大学医学部付属東京病院（渋谷区代々木1-2-5）……………03-3370-2321

阿部メディカルクリニック（足立区千住河原町21番10号）……………03-5813-5511

永田町つばさクリニック（千代田区平河町2-6-4）……………03-3511-2839

東京国際空港診療所（大田区羽田空港3-3-2）……………03-5757-1122

・個人で申請されている方は、各種申請に必要ですから許可書の番号を本田航空運航管理049-299-1105までお知らせ下さい。

クラブ員の皆様へ



○総会で今年度の活動計画と予算が承認され、会長のご挨拶の中にもありましたが本年度はウイングニュースが年3回の発行となります。宜しくご了承下さい。

クラブの情報については、6月下旬を目処に下記のURL（本田航空HP内）でも会員の皆様にお知らせできるように作業を行っていますのでしばらくお待ち下さい。

<http://www.honda-air.co.jp/people/club.html>

○セスナ172S型の説明は215号では全般をご紹介しましたが、連載として次回はG1000をご案内いたします。お楽しみに！

ウイングニュース 215号

発行者/ホンダフライングクラブ事務局

〒350-0141

埼玉県比企郡川島町大字出丸下郷53-1

本田航空株式会社内

Tel 049-299-1111(代表)

夢は空でカタチになる。

さあ、空へ——。
雲に近づき、風を感じる。
コクピットの向こうに広がる無限の世界。
そこには夢を実現させるチカラが存在する。
あなたの夢は何ですか。
今まで抱いてきた熱い思いを、聞かせてください。
ハート、セーフティ、スピード、快適さ、そして技術。
私たち本田航空が一翼となりあなたを強力にバックアップします。

ホンダエアポートは…

- ・都心より約40km
- ・訓練空域内にある夜間照明施設付きの自社飛行場
- ・豊富な訓練機（C172、BE58）
- ・充実した地上施設（アドバイザリー局、衛星通信による気象及び航空情報、運航管理システム）FTD（飛行訓練装置※ログオンできます）
- ・十分なスペースのブリーフィングルームとクラブルーム
- ・経験豊富な教官が親切に対応します

* 自家用、事業用操縦士・計器飛行証明を取得してみませんか？
訓練開始時期、訓練期間、お気軽にお問い合わせください。
詳細は下記ホームページに記載されていますので、ぜひご覧下さい。



本田航空 〒350-0141 埼玉県比企郡川島町大字出丸下郷53-1
HP <http://www.honda-air.com/index-b.html>